

# 活動報告書

報告者氏名：漆田貴子・草川聡美 所属：千葉県立船橋特別支援学校 記録日：平成26年2月28日

## 【対象児（群）の情報】

- ・学年 小学部5年生 男児
- ・障害名 ウェルドニッヒホフマン病（脊髄性筋委縮症）
- ・障害と困難の内容  
人工呼吸器使用。24時間家庭のベッドで過ごし、自分で出せる動きは目と指先のわずかな動きのみ。経験が不足していることもあり、自分から「何かやりたい」「これがほしい」などの要求が限られており、外出やスクーリングへの意欲も乏しい。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい
  - ① 訪問授業での取り組み  
コミュニケーションを楽しむ、興味の広がり
  - ② 家庭生活での活用  
親子で楽しめる生活の広がり、保護者にとって便利なツールとしての活用
- ・実施期間 平成25年6月上旬～
- ・実施者 草川 聡美 漆田 貴子
- ・実施者と対象児の関係 訪問学級の担任（1日2時間の授業を週3日家庭で実施）  
（本児の1週間の予定）※この他に訪問でのPT・診療（隔週）、歯科診療（年4回）などがある。

	月	火	水	木	金	土
午前	学校	訪問PT	訪問看護		訪問看護	訪問ST（隔週）
午後	訪問看護	学校		訪問OT	学校	

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

### ○対象児（群）の事前の状況（iPad導入前）

#### ① 訪問の授業での取り組みについて （コミュニケーションについて）

4月に担任が変わったこともあり関係づくりからのスタートとなった。本児と日頃接していない人にもわかるほど、言葉かけに対して「YES」（うなづく）「NO」（首を横にふる、眼球を上下に動かす）ははっきりしている。その他に話せる単語として「おかあさん」「ご本」「おは～（おはよう）」「うんうん（トイレ）」「おわった」などがある。本児独自のサインとして下唇を左右に動かしたり（DVDが見たい）、眼球を上下に動かしたり（拒否の気持ち）がある。支援者との話しにはほとんど母親がやりとりのあいだに入っている。そのためか困ったときや、母親の姿が見えないときなどは「おかあさん」と連呼して助けを求めている。就学時より、小学校1年生程度の国語、算数の学習をしている。本児は繰り返しの学習にあきている様子や苦手意識をもっている様子があり、「国語、算数をやろう」という誘いかけにはわざと眠ったふりをしたり、眼球を上下に動かして拒否の態度を示したりしている。

#### （興味の高まりについて）

本児が好きなものは、戦隊ものやヒーローもののテレビ番組や関連したDVD・本などである。その他の絵本の読み聞かせも好んでいる。以前スクーリング時に呼吸状態が悪くなったことがあり、「学校に行こう」という誘いかけや外出そのものに応じることが少ない。日常的に大人との関わりが多く、友だちとのやりとりの経験が少ない。

## ② 家庭生活での活用について

本児の自宅にはインターネットの環境がなく、母親の携帯電話もEメール機能のみがついている。そのため、本児の医療的ケアなどについて何か調べたいことがあるときは、母の知人に依頼するため、情報を得るのに時間がかかっている。インターネットを使い買い物などをした経験がない。親子で楽しめるものはDVD・TV鑑賞や本の読み聞かせなど限られている。

### ○活動の具体的内容

#### ① 訪問の授業について

- ・コミュニケーション力を高めるための基礎的な学習である国語、算数で学習アプリ活用
- ・生活単元学習（戸外学習「本を買いに行こう」）でカメラ、ビデオ機能を用いての事前、事後学習
- ・スクーリング（運動会参加）でカメラ・ビデオ機能を用いての事前、事後学習
- ・ネットショッピングの経験
- ・修学旅行（来年度、6年生時参加予定）に向けての事前学習（調べ学習）
- ・友だちや教師とのやりとり（ビデオレター）



iPad を使って先生と一緒にほしいDVDを探して、注文したよ！

#### ② 家庭生活での活用

- ・操作方法などを確認して週末、家庭にiPadを預け自由に使用する環境をつくる。

### ○対象児（群）の事後の変化

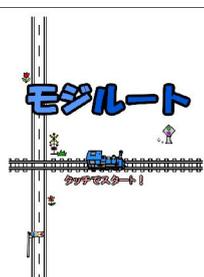
#### ①訪問の授業について

（コミュニケーションについて）

国語や算数では楽しんで学習できるアプリ（右記）を使用した。触れると音や映像が流れる、大きな画面で確認できる、正解するとキャラクターがほめてくれる、アニメーションの効果音が変わるなどのフィードバックがわかりやすく、本人が「できた！がんばった！」という実感がもてた。

そのことから、1学期前半によく見られていた気持ちが学習に向きにくい日がほとんどなくなった。さらに「おかあさん」と連呼し助けを求めることも減り、授業時に母親が児童から離れて家事をすることが増えた。母親が児童から離れることで、児童と教師だけでのやりとりも増えた。

結果、児童がなんとか言いたいことを自分で伝えようと工夫し、それを後から聞いた母親が喜び、本人も嬉しそうにするといったことが見られるようになった。



モジルート

はじめてのあいうえお



ゆびドリル

わかる！さんすう小学1年

(興味の広がりについて)

本人の興味のあることから始めて学習をしてきた。本を買いに行った際は、心拍、呼吸状態とも安定して活動できた。事後学習では感想をいくつかの選択肢から選ぶ際には「またいきたい」を選び、外出に気持ちが向いてきている。

後日「ご本、ご本」と言い、支援者（看護師、PT、OT、ST、医師）らに自分から買って来たことを伝えていた。iPadを使った学習を重ねて来たことで、調べたいことがあると、iPadに視線を向けて「調べたい気持ち」を伝えたり、友だちや教師からのビデオレターをみた後に「返事のビデオをとろう」という働きかけに応じたりするなど前向きな姿が見られた。



お金を自分で払ったよ！本は自分で持って帰ったよ！

③ 家庭生活での活用

余暇の時間に、母親がベランダから見える夕景や十五夜の月を撮り、ベッドで過ごす本児が見ることのできない景色をiPadで家族一緒に見ることができた。その他にも、本児が「ほしい」と言った物を、親子で検索して選んだり、塗り絵アプリで楽しんだりなど家族での過ごし方が広がった。本児の体調に関する事を母親と訪問看護師が調べて情報を共有したり、ケアに必要なグッズを調べてメーカーに問い合わせたりして活用している。母親は手軽ですごく便利な物という実感をもっている。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

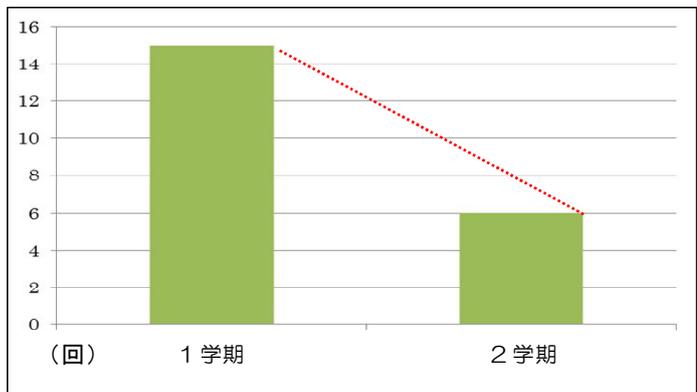
- ・苦手だった国語・算数に、意欲的に学習できているのではないかな。
- ・体験学習の積み重ねから「相手に伝えたい」「伝わると楽しい」という気持ちが芽生えてきたのではないかな。
- ・伝わった経験から自信をもっているいろいろなことに取り組んだり、あきらめなくて伝えたりすることができるようになってきたのではないかな。

○エビデンス

- ・導入前（平成24年度）と比較すると、話す言葉が6語から10語に増えた。

導入前（前年度）6語	導入後（今年度）10語
〇〇（名前） おは～ ご本 おかあさん うんうん おわった	〇〇（名前） おはよう ご本 おかあさん うんうん おわった ほしい せんせい ふなっし～ ミッキー

- ・日々の指導記録をもとに、授業時に気持ちが学習に向きにくい（眠る、眠ったふりをする、NOのサインを繰り返し出す）日を集計した。その結果、1学期（4月～7月）は全授業回数36回中15回がそのような状態であった（月平均4回）。対して、2学期（9月～12月）は全授業回数回中6回（月平均2回以下）と減少している。結果学習に意欲的に取り組むようになってきたといえる。



## ○その他エピソード

- ・今年度から来年度の修学旅行に向けて、一緒に参加する友だちと iPadでのビデオレターのやりとりを取り入れた。同じように訪問の授業を受けている友だちに、本を借りたり、DVDを貸したりする経験をした。一人っ子の児童にとっては誰かに何かを「貸す」いう経験がなく、自分の手元からお気に入りのものがなくなることにはじめは嫌がっていた。教師と保護者で「貸す、借りる」の説明をし、納得して貸すことができた。貸したものが返ってくるという経験をしたことにより、看護師さんにCDを貸してあげたり、OTさんからDVDを借りたりするなどのやりとりができるようになった。人との関わりが広がったとともに、生活の中でのルールを学ぶよい機会となった。
- ・パソコンでの文字入力も練習中ではあるが、ベッド上に設置するために人工呼吸器のホースの位置を変えたり、児童の姿勢変換をしたりと学習にとりかかるまでに時間がかかり、待ち時間も長い。そのため、待っているあいだに眠ってしまうといったことも多かった。iPadは起動も早く、支援者が側で持ったり、アームを使用したりすることでセッティングが容易であるため、待ち時間も少なく学習にすぐに取り組める。ベッド上での学習が主の児童にとって、また保護者にとって欠かせないものとなってきている。



訪問の友だちと初めてビデオレターをやりとりしました。自己紹介をして、おすすめのDVDを紹介しました。

(パソコンでの学習)



設定までに10~15分かかるとも・・・

- \* 必要な物、こと \*
- ・パソコン (ACアダプター)
- ・電源
- ・台
- ・滑り止めマット
- ・固定用ベルト2本
- ・姿勢変換

(iPadでの学習)



学習にとりかかるまでは2~3分!

- \* 必要な物 \*
- ・iPad

## 【今後の見通し】

今後も iPad を活用し、来年度の修学旅行に向けてビデオレターやスカイプなどで通学や訪問の友だち、いろいろな教師とのやりとりを重ね、人とつながることを楽しむ気持ちや安心して外出できる気持ちを育てたい。経験を重ね、自信をもつことで本児が前向きに、意欲をもって次の活動に取り組むようになるであろう。また、2学期終業式では、前日から日頃会うことの少ない教師たちに話したいことがあるとはりきっていた。当日はやりとりを楽しむ姿が見られた。このような自分から進んで関わろうとする気持ちを大切にしつつ、支援者一同での連携会議を通して、母親を介さずに本児が友達や複数の支援者とより豊かなコミュニケーションがはかれるようにICT機器を有効に活用していきたい。